

みどりの杜俳句会

初詣手作り絵馬を納めけり

梅沢喜久江

年迎へ心新たにエプロンたむ

西 ツル

正月の花の五色を活けにけり

梅澤 時江

年越の蕎麦にのせあり油揚げ

鈴木 啓子

節料理脂のりたる金目鯛

田村 好子

秩父祭りの宵宮法被揃いけり

小宮 勉

解きつつ手渡し売りや寒苺

山田 美子

築山の陰に残りし霜柱

土屋 厚子

山気澄み鳴き声高く初鴉

初雁 功子

初参り健康祈願手を合わす

吉田 愛子



人権シリーズ

【中学校での人権教育】

(422)

中学校では、人権学習として年に二回、前期と後期で人権作文を書きます。男女差別や人種差別、いじめ、いろいろなテーマで生徒は人権について考え、作文で表現します。その他にも年間を通じて道徳の授業で他者との関わり、自分自身のこと、社会との関わりなど多くの関わりについて考え、人権学習を行っています。私は教員になり14年になりますが、生徒との関わりや価値観に変化があった時期があります。それは、私自身の子どもが生まれた時です。改めて学校は、家族からお子さんの命を預かっている職場なのだと感じるようになりました。中学校とは、たくさんのことを学び成長していく場であると思いますが、一番は預かった大切なお子さんを、無事に家庭に返すことが大切なのだと思います。私が中学生の時に、同級生が転落事故により学校で亡くなり、その翌年、学年主任の先生が病気で亡くなるなど不幸が続いてしまい、中学校では命の大切さを痛感しました。その学年主任の先生が常々言っていた言葉があります。「当たり前前のことを当たり前前により、当たり前前のことを有難いと思おう。」今となって、この言葉の意味が深く大切な言葉だったのだと感じます。「今元気に過ごしている子どもたちや関わっている人達がいることが当たり前ではなく有難い。」と思うことから人権学習が始まるのだと私は考えます。「有難い」、有ることが難しいことに感謝しつつ、「有難い」な人生ではなく、「有難い」ことが多くある人生を生徒には進んでほしいです。東秩父中学校教諭 長谷川 駿人



「槻川の秋」
撮影者 写友会
福島 榮二さん（御堂）

アートの世界

11月中旬。槻川のほとりで色づいた木々を撮影しました。
木々から落ちた葉が下に流れる槻川の水面に浮かび、辺り一面が色鮮やかな赤や黄色、茶色で染まりました。